

山武稲作情報 第4報

(2024年6月28日発行)



山武農業事務所 改良普及課
TEL:0475-54-0226
FAX:0475-52-7914

山武地域の生育状況

6月は寒暖差がありましたが、日照時間が確保できたことから生育は順調に進みました。山武管内の調査では草丈は平年並みでしたが、茎数はやや多い傾向にありました。また、幼穂形成期は移植の早かった品種（早生品種、晩生品種に関係なく）はやや早く、その他の品種では平年通りの時期に迎えています。

これから気温が上昇し、病害が発生しやすくなります。特に茎数の多いほ場では風通しが悪くなりやすいため、いもち病、紋枯病の発生に注意しましょう。現在、早生品種を中心にいもち病の発生が見られています。今後の天候によってはいもち病の発生・拡大のリスクが高まりますので、ほ場をよく観察し、拡大が予想されたら治療効果のある薬剤による防除を実施しましょう。

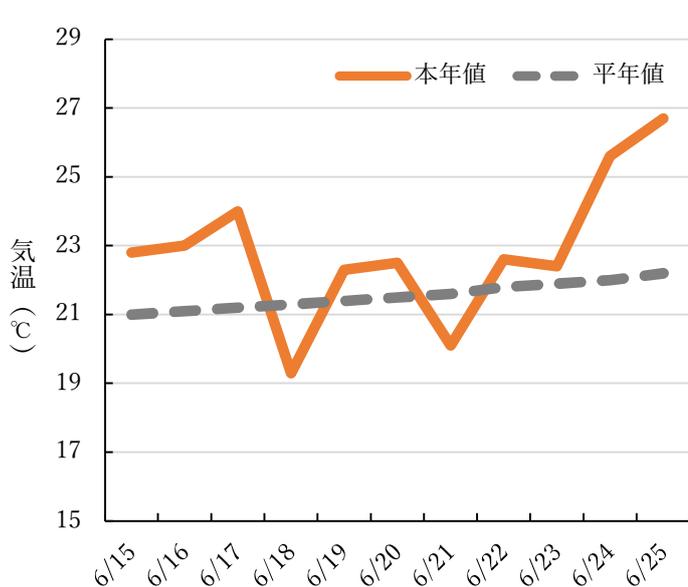


図1 日平均気温の推移(アメダス、横芝光)

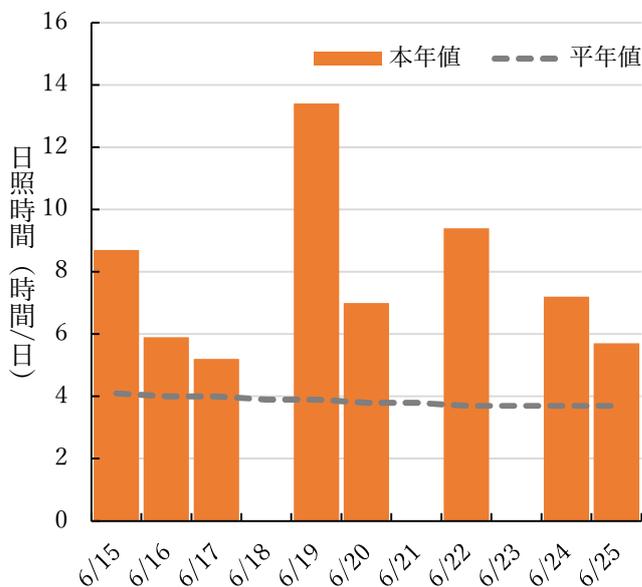


図2 日照時間の推移(アメダス、横芝光)

出穂期予測(6月26日現在)*1

移植日	品種			
	ふさおとめ	ふさこがね	コシヒカリ	粒すけ
4/20	7/7	7/8	7/16	7/15
5/1	7/14	7/15	7/23	7/23
5/15	7/21	7/23	7/30	7/31

病害虫発生予報(6月18日時点)*2

病害名	予想発生量 (平年比較)	防除上の注意事項
いもち病 (葉いもち)	並	発病を発見したら 早めに治療効果の ある薬剤を使う。
紋枯病	並	粒剤は出穂20日前 頃に散布を行う。

*1 予測日は水稻生育予測システム「でるた TM」により、アメダス横芝光のデータを用いて予測しています。移植時の苗の条件、ほ場の条件、予測を行った日以降の気象条件により誤差が出る場合があります。

*2 詳細は千葉県病害虫防除課のホームページを御参照ください。

今後の管理について

○県内で増加しているイネカメムシの対策

●イネカメムシとは

水稻の籾の付け根や穂を加害し、不稔籾や斑点米を発生させる大型のカメムシです。体長は 12～13mm、だ円形で茶褐色をしています。

主に出穂期に籾の付け根の部分を加害することで、**不稔籾**を発生させます。その後の穂揃い期以降に加害された穂は**斑点米**となり、多くが基部斑点米となります。

●防除対策

不稔籾の発生を防ぐには、**出穂期前～出穂始期の薬剤散布**が必要です。**出穂期前後**にイネカメムシを発見した場合、**薬剤による防除**を実施しましょう。また、**斑点米の発生を防ぐためには**、**乳熟期後期(出穂後 15 日頃)**の薬剤防除を実施しましょう。

なお、**出穂の早いほ場や出穂が特に遅い水田**はイネカメムシの加害が集中する可能性があるため、**注意が必要**になります。



写真1 イネカメムシの成虫

表1 イネカメムシに対する防除薬剤の例

薬剤名	使用倍率	使用時期	使用回数	IRAC コード
スミチオン乳剤	1000倍	収穫 21 日前まで	2 回以内	1B
キラップフロアブル	1000～2000倍	収穫 14 日前まで	2 回以内	2B
トレボン MC	2000 倍	収穫 14 日前まで	3 回以内	3A
スタークル顆粒水溶剤	2000 倍	収穫 7 日前まで	3 回以内	4A

農薬を使用する際は、使用前に必ずラベルを良くお読みいただき、表示のとおりにお使いください。

コラム 水田の均平化による効果

水田を耕作し続けることで、耕うんや稲刈りによる作業機の動作やその他の要因により、水田に凹凸が発生します。水稻栽培において安定した収量を確保するためには、均平化を行って水田の凹凸をなくする必要があります。そこで、水田を均平にすることで得られる効果を4つ紹介します。

①ジャンボタニシの食害防止

均一な浅水管理がしやすくなるため、食害される面積を減少させることができます。

②除草剤の効果

田面の露出が抑えられることで、除草剤の処理層が維持しやすくなり、除草効果が長持ちします。

③肥効の均一化

水温、地温が均一になり、窒素の発現量が同等になることで生育が均一になります。また、一発肥料は地温により溶出量の変動します。

④水管理

田面が均一になることで、水が全体にいきわたりやすくなり、使用水量や入水時間の削減が期待できます。

水田の均平化を図るには、今作の記録が非常に重要となります。ジャンボタニシの食害や雑草の発生箇所や、田面の露出しやすい部分を記録しておくことで次年度の改善につながります。

生育調査結果(幼穂形成期時点、ただし、現在幼穂形成期になっていない品種は6月25日時点)

*本年値の()内は平年比(過去10年)を示しています。

*葉色は、カラースケール(CS)による数値を表しています。(調査は葉色計(SPAD)を用いています。)

コシヒカリ

場所・移植日	年次	幼穂形成期	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS*値)
東金市 4/28 移植	本年	6/25	63.0 (96%)	523 (118%)	11.1 (100%)	2.6(87%)
	前年	6/26	65.6	396	10.5	3.9

ふさこがね

場所・移植日	年次	幼穂形成期	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS*値)
山武市 5/3移植	本年	6/25	61.1 (104%)	509 (97%)	10.4 (98%)	4.9(97%)
	前年	6/28	56.6	378	10.3	4.4

ふさおとめ

場所・移植日	年次	幼穂形成期	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS*値)
山武市 4/30移植	本年	6/19	50.0 (96%)	640 (123%)	11.2 (96%)	4.4(92%)
	前年	6/21	50.0	335	10.0	5.4

アキヒカリ

場所・移植日	年次	幼穂形成期	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS*値)
山武市 4/25移植	本年	6/14	51.3 (91%)	567 (106%)	11.1 (97%)	4.4(82%)
	前年	6/21	60.7	479	11.4	5.6

夢あおば

場所・移植日	年次	幼穂形成期	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS*値)
山武市 5/18移植	本年	未到達	58.1 (108%)	489 (130%)	10 (103%)	5.3
	前年	7/5	51.3	371	10.3	5.4

千葉県農林総合研究センター 水稻・畑地園芸研究所 成東育成地による生育調査結果(幼穂形成期時点)

*調査は全て山武市で行われています。

*本年値の()内は平年値(過去10年)との差を示しています。

*葉色は、カラースケール(CS)による数値を表しています。(調査は葉色計(SPAD)を用いています。)

品種・移植日	年次	幼穂形成期	草丈(cm)	茎数(本/㎡)	葉齢	葉色(CS*値)
コシヒカリ 4/25移植	本年	6/22	65.3 (107%)	515.5 (99%)	11.0 (106%)	3.9 (94%)
	前年	6/23	62.3	616	10.6	4.1
ふさこがね 4/25移植	本年	6/14	48.9 (93%)	522.2 (93%)	9.9 (96%)	5.1 (102%)
	前年	6/20	57.7	436	10.8	5.7
ふさおとめ 4/25移植	本年	6/14	50.0 (100%)	511.5 (90%)	10.6 (100%)	4.9 (105%)
	前年	6/19	55.0	394	11.1	5.0
粒すけ 4/25移植	本年	6/22	60.5 (103%)	564.6 (104%)	11.3 (101%)	4.1 (93%)
	前年	6/23	58.5	572	11.3	4.7

次回の情報は7月29日(月)に発行する予定です。